



岡山大学法学部だより



※ 本メールは法学部の教職員、在学生、卒業生および岡山大学法学部ホームページから登録された方登録された方にお送りしています

第92号(2014年6月13日発行)
発行：岡山大学法学部 学部長室

梅雨にはいりました。

目次

- 「ボストン在外研究記。」 (第1回)
- 法学部からのお知らせ

○ 「ボストン在外研究記。」 (第1回)

昨年9月から Harvard Law School で訪問研究員 (Visiting Researcher) として研究に従事する機会を頂いている。「ああっ！」と3回ほど叫んでいるうちに時間は過ぎてしまった。

“Time is real.” —Roberto Mangabeira Unger

(時間こそが [生成も消滅もしない] 実在である。 [他のあらゆる事物は遅かれ早かれ変化する。変化一すなわち変化を司る法則—すらも変化する。] ロベルト・マンガベイラ・アンガー)

だから、この時間という実在を常に心に刻もう (大切にしよう) とはしているのであるが・・・。

私のこちらの生活については客観的には特筆すべきことは何もないので、この『A のどたばた留学体験記(?)』の執筆をためらっていたが、書くことを通して何かを (私にとって大切に思われたことを) 想起こそす独想の機会とさせて頂きたい。

Harvard Law School 教授 (思想家・政治家) Roberto Mangabeira Unger の授業に出まくる。機会を捉えて Unger と議論をする。そのことを通して Unger の精神世界に近づき、のみならず A 自身のポジションをも理解する。Unger の思想・プロジェクトに共鳴する Harvard の学生・研究者と情報交換・意見交換をする。法思想・法的思考の 21 世紀における next step を見定める・・・。

ざっくりと言って、こうしたことをやりたくて Harvard に来た。(岡山大学の先生方からこの貴重な機会を頂戴した。) 日本の学者がついて行くことを止め忘却してしまった Unger の知的活動—それは、法理論・政治理論にはじまり、マルクス主義に代わる左派社会理論・政治プログラムの提示へと進み、そして近年では経済学・哲学・神学、さらには宇宙論・時間論 (!) までをも論じるに至っている—は、ここ Harvard University においては、決して大多数とはいえないけれども、志高い学生・大学院生・世界各国からの留学生の心を確かに強く「揺さぶって」いる。Professor Roberto Unger...He is something, indeed...

Harvard の教授たちはすべてその分野の怪物たちであり、著作・論文の量と質においてはもちろんのこと、講義・プレゼンテーションにおいても、その卓越した力量で私たちを魅了する。しかしながら、Roberto Unger の講義は、“とりわけ”と強調しても強調しすぎることがないほど、参加した者たちの度肝を抜く圧倒的なものである。偶然に受講した Unger の講義から大きな知的エネルギーを感じとり、そこから Unger の精神世界・作品に惹き込まれた学生たちも少なからずいる。

Unger の講義は、時間通りにおもむろにはじまり、時間通りにぴたりと終わる。ありたいの挨拶やつかみのジョークなど全くなく、学生がまだがやがやとしていることも全く気にも留めずに、定刻になると椅子からすっと立ち上がり、“Today’s theme is…”と低く良く通る声—一瞬で学生の注意を惹き付ける声—で話し始める。

講義ノートなどは持参せず、何も一切見ずに、頭の中に理路整然と組織化された約2時間の講義内容を情熱的によどみなく話し続ける。最初にその日の授業のアウトラインが述べられ(「今日のテーマは大きく分けて3つ

あり、3つはそれぞれ3つに分かれ、それぞれが密接に関わり合う。このテーマは先週の話の発展であるゆえ、まずは先週の話のエッセンスを角度を変えてまとめ直すことから始めよう……」等々。)、次に、明確な章立てによって議論構造(話の筋)がはっきりと分かる本論が続く(「ポイント1……ポイント2……ポイント3……、これら3つのポイントの相互関係とそれを貫く本質的論点についての私の考えはこのようである……」等々。)、そして最後に、学生からの質疑応答へと進んでいく。(ときに講義を小分割して、適宜学生からの質問を受けることもあるが、その際にも、「今日は講義をステップごとに分割し、それぞれの段階で質問を受けるという計画のもとに進める」という的確な予告からはじまる。)内容は、その著作と同様、Unger独自の難解かつ抽象的な概念に溢れていて反芻を要する。しかしながら、講義構造(形式)は端正というほかに、演説の模範そのものである。

生まれ持った驚異的な記憶力と、誰の言葉でもなく自分自身の言葉で思考を紡ぐことに人生を捧げてきた第一級の思想家の努力がなし得る講義スタイル。ときに両手を大きく広げて声を張り上げ、ときに腕を組んで教卓の周りをせわしなく歩きながら、情熱的に・挑発的に、法について・政治について・経済について・宗教について・そして人間本性について、Ungerは語り・問いかける。(Ungerは近年は春学期にのみ4つの授業一月曜日＝神学(哲学)、火曜日＝政治理論、水曜日＝法理論、木曜日＝経済理論一を開講する。)

「私はこのような目的・戦略を持って、このように解釈・理解し、そしてこのように信ずる。さあ、君たちに私の戦略・理解・信念をこのように提示した。君たちはこれらをどのように思うか、どこに問題があると思うか、それを聞きたい。」一瞬の沈黙に続いて、学生も(Aも勇気を振り絞って)Ungerの世界観の提示と挑発に対抗しようとする。「Unger教授、この論点には賛同する。しかし、この点については私にはまったく説得的ではない。私はむしろこのように理解している……。」

講義とは、Ungerにとって、常に全身全霊のプレゼンテーションの場であり、知の伝授と闘争の場——ときに自身の考えの弱点が露わになる場——である。

Here I am trying to clarify my ideas and proposals because I already wrote about them and thus there is no way that I can hide them. I write a book in order to discard it. What matters in this course, at least to me, is to find out a next step… (私は今、私の考えと提案を明らかにしようとしているのだが、そうするのは、私はすでにそれらを書いてしまっており、隠すことなどできるべくもないからだ。私は、本を書くときそれを捨て去るために書く。この講義において私にとって問題なのは、[学生との議論を通して知ることができるだろう] 次のステップである。) (講義でのUngerの同趣旨の発言の要約)

ただ、「今日の大学という空間が、真の意味での知的闘争・創造的知の場としては相応しくない場所であることも、私は十分承知している」ともUngerは言う。「現実問題」として、単位取得も含めた「試験ごと」に学生たちが多くの意識を注がざるを得ない状況にあり、すくなからぬ人々—教授も学生も—がそうした状況を深く憂い・批判視している。こうした昨今の大学環境は、Harvard Law Schoolという秀才が集う「恵まれた場所」といっても同じである。

ある人物は、「Harvard Law Schoolの授業は、支配的な判例に多くの時間を割く、学生の『ニーズ』に迎合する授業ばかりだからあまり面白くない」と言って、法律学に見切りをつけ、卒業後は裁判官のクラークを勤めたのち、シリコンバレーでベンチャー企業をおこして、数年前に「アメリカ起業家オブザイヤー」に選出された。本当に創造的な頭脳は、やはり、既定路線的法律学からははみ出してしまうものなのだ。

だが、問題は、こうした「逸脱」を天才たちだけの特権に留めずに、自由な発想をより多くの人たちにとっての「権利」とすることができるような学問領域・知的空間を創ることである(誰しものがそのように述べ、そして誰も未だ実現できない)。そして同様に重要なことは、「逸脱」は「通説」をとことん理解しようと努めた者へのみ、「通説とは異なる新しい何か」としてその姿を見せ始めるという大切な事実を知ることである(上の人物は、単に創造的というだけでなく、裁判官のクラークを努めるほど法律学もしっかりと勉強したのである)。自分が入って行こうと決めた世界(法学や政治学の世界)に、決して溺れることなく、だがとことん深く身を晒す努力をすることがいかに大切か……。Engagement without surrendering to it…

Ungerが学生の心を揺さぶることに成功した回の授業は、学生たちの拍手と、一瞬見せる満足げなUngerの表情で終わる。

○ 法学部からのお知らせ

☆岡山大学オープンキャンパス

2014年岡山大学法学部のオープンキャンパスは8月9日（土）に実施します。

各学部の実施日は以下のとおりです。詳細は6月下旬岡山大学ホームページに掲載されます詳細をごらんください。申込開始は7月1日（火）を予定しています。

<http://www.okayama-u.ac.jp/tp/prospective/koukai01.html>

2014年8月8日（金）：文学部・教育学部・理学部・医学部医学科・歯学部・工学部・環境理工学部・農学部・マッチングプログラムコース

2014年8月9日（土）：法学部・経済学部・理学部・医学部保健学科

.....

- ・本メルマガは、毎月2回程度配信しています。
- ・法学部の詳細情報に関しては、HPも併せてご覧ください。
法学部 HP <http://www.law.okayama-u.ac.jp/>
- ・本メルマガには返信なさないようにお願いします。
- ・本メルマガの登録・解除は、以下のURLにてお願いします。
<http://www.law.okayama-u.ac.jp/local/mail/>
- ・ご意見・ご感想は、法学部 情報委員会 joho-mailmaga@law.okayama-u.ac.jp まで。